

<p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">意見書</p>	
<p style="text-align: center; margin: 0;">_____ 保育園施設長殿</p>	<p style="text-align: center; margin: 0;">児童名 _____</p>
<p style="margin: 0;">病名「 _____ 」</p>	<p style="margin: 0;">_____</p>
<p style="margin: 0;">年 月 日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します</p>	<p style="margin: 0;">_____ 年 月 日 _____</p>
<p style="text-align: center; margin: 0;">医療機関 _____</p>	
<p style="text-align: center; margin: 0;">医師名 _____ 印またはサイン _____</p>	

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育所生活が可能な状態となつてからの登園であるようご配慮ください。

○医師が記入した意見書の提出が望ましい感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹(はしか)	発症 1 日目から発しん出現後 4 日間まで	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間(発症前 24 時間から発病後 3 日程度までの感染力が強い)	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで(幼児・乳幼児にあつては 3 日を経過するまで)
風疹	発しん出現の前 7 日から後 7 日間くらい	発しんが消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しん出現 1~2 日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺・顎下腺・耳下腺の腫脹が発現してから 5 日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱・充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎	充血・目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症 (o-157, o26, o111 等)		症状が始るり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48 時間をあけて連続 2 回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から 1~2 週間・便から数週間~数か月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで

登園届 (保護者記入)	
保育所施設長殿 _____	児童名 _____
病名 「 _____ 」と診断され、 _____ 年 月 日 医療機関名「 _____ 」において 病状が回復し、集団生活に支障がない状態と判断されましたので登園いたします。	
保護者名 _____	印またはサイン _____

登園の際には、登園届の提出をお願い致します。

(なお、登園のめやすは子どもの全身状態が良好であることが基準となります。)

保育所は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、一人一人の子どもが一日快適に生活できることが大切です。

保育所入所児がよくかかる下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断に従い、登園届の提出をお願いします。なお、保育所での集団生活に適應できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

○医師の診断を受け、保護者が記入する登園届の提出が望ましい感染症

病名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	抗菌薬内服後 24～48 時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(リンゴ病)	発しん出現前の 1 週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・アデノウィルス等)	病状のある間と、症状消失後 1 週間(量は減少していくが数週間ウィルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事が取れること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に 1 カ月程度ウィルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し、機嫌が良く全身状態が良いこと